

まちだ納税貯蓄組合連合会 優秀賞

『未来へのチケット』

町田市立成瀬台中学校 3学年 小笠原 ななみ

みなさんは「税金」と聞いて、どんなイメージを持つでしょうか。正直にいうと、私は少し難しそうで、自分とはそこまで関係がないものだと思っていました。けれど、この作文を書くにあたって調べてみて、税金は自分の生活にも深く関わっていることが分かってきました。

例えば私たちが通っている学校です。教科書や机、冷暖房の設備、先生のお給料など、多くが税金でまかなわれています。道路や公園など、日頃から利用しているものも税金のおかげで維持されています。さらに、お年寄りの介護や病院、災害時の復興にも使われています。

こうして見てみると、税金は「みんなのために使われるお金」だということが分かります。日本には消費税に所得税、住民税など、およそ五十種類の税がありますが、どれも国や社会を動かしていくために必要なものです。

「どうして自分のお金からたくさん取られなくてはいけなかったか」と感じる人は少なくないと思います。私もそのうちの一人です。

す。けれど、税金は「取られる」ものではなく、「未来の自分たちのために預ける」ものだと考えるようになりました。税金がなければ、困っている人を助ける制度も、安心して暮らせる社会も成り立ちません。

例えば、地震が起きたとき、救助や支援に速やかに行動できるのは、ふだんから税金で防災の準備をしているからです。また、年をとったときに介護や医療のサポートを受けられるのも、今の税金があるからです。

私は税金を通して「支え合う社会」をつくっていることに気づきました。二〇二四年に起きた能登半島地震では、多くの人が家を失い、水道や道路も使えなくなっていました。でも、すぐに全国から消防や自衛隊が駆けつけ、避難所が整えられ、仮設住宅が建てられました。これらの活動には私たちの税金が使われています。税金があるからこそ、被災地の方々は少しずつ生活を取り戻すことができています。もしかしたら、将来自分が困ったとき、誰かの税金によって助けられる日が来るかもしれません。

税金のことを学ぶほど、ただの「お金」ではなく、未来の私たちの安心や安全を守る、「チケット」のように感じます。これから税金についてもっと学び、自分にできることを考えていきたいです。そして自分の税金が誰かの笑顔や安心につながる「未来へのチケット」であることを頭に入れ、人生を歩んでいきたいです。